

真のグローバルオペレーションで 鉄道と社会に新たな価値を

振り返ってみると、この3年は、私たち日立の鉄道事業にとって大きな変革の日々でした。英国への本社移転、また、アンサルドブレダ社（現 Hitachi Rail Italy 社）の完全子会社化およびアンサルドSTS株式の過半数の取得を経て、グローバルなオペレーションへと大きく変わりました。

先の買収を通じて私たちは、ターンキー、信号、運行管理システム事業を強化し、製品ポートフォリオを拡大しました。また、日本と英国の製造拠点に加え、イタリア、米国にも製造拠点を構えることによって、今では世界中のあらゆる市場へアクセスしやすくなりました。

事業規模では欧州のビッグ3に迫りつつありますが、こうした確固たる事業基盤を足掛かりにさらなる飛躍を実現すべく、私たちは「グローバル」、「サービス」、「イノベーション」から成る3つの戦略テーマを策定しました。

これからの3年、私たちは車両事業の統合を完遂し、ワールドクラスのグローバル生産体制を確立することでさらなる変革を遂げ、真のグローバルオペレーションを実現させます。加えて、サービス事業による安定的な収益確保、将来の鉄道技術への投資を積極的に行い、新規事業の拡大をめざします。

また、未来を創るイノベーション、その系譜は私たち日立のDNAの中に脈々と受け継がれていると思っています。私たちのイノベーションの歩みは、1910年、久原鉦山の機械修理工場として、茨城県日立市で創業したときから始まりました。鉄道事業にとっての初めてのブレークスルーは1924年で、この年に日立は日本企業として初めて大型電気機関車を開発したのです。以来、私たちは新幹線、高密度輸送や旅客サービス向上に寄与する運行管理システム、電気・ディーゼルエンジン両用のバイモード駆動システム、ディーゼルエンジンと蓄電池を組み合わせたハイブリッド駆動システムなどといったさまざまな高品質鉄道ソリューションを社会に送り出してきました。

一方で、これからのIoT (Internet of Things) 時代を迎えるに当たっては、これまで鉄道分野で長年培ってきた私たちの技術やノウハウを基にITをいかに活用するかが鍵となってきます。例えばビッグデータとAI (Artificial Intelligence) 技術の融合は、旅客サービスや各種アセットの管理・メンテナンスなど、あらゆる分野で新しい世界をもたらすことができる、まさに無限の可能性への扉を開ける鍵です。こうした技術を日立の仲間の内に有していることが私たちの大きな強みであり、新たなイノベーションをより多く、より速く社会へお届けすべく、日頃よりグループ一丸となって力を合わせています。

本特集では鉄道分野における市場の環境やトレンド、次世代モビリティというコンテキストにおける鉄道の将来像について触れるとともに、「グローバル」、「サービス」、「イノベーション」の3つの戦略テーマに沿った、私たちの最先端の鉄道技術とそれらを適用した最新システムについて紹介します。鉄道分野における総合システムインテグレーターとして、イノベーションを通して、新しい価値をもたらすことで、社会のニーズやお客様が直面しているさまざまな課題解決に応え、よりよい社会の実現に全力を尽くして参ります。

アリスティア・ドーマー

日立製作所
執行役専務
兼 鉄道ビジネスユニットCEO